

スーパーグローバルコース実施運営協議会
拡大実務担当者連絡会（第2回）議事メモ（案）

日 時：平成28年2月8日（月）10時00分～12時00分

場 所：事務本部棟 5階 大会議室

議 事

- ・ジャパングートウェイ構想パンフレット・HP に使用するポンチ絵等の変更案について【資料1】

教育プロジェクト推進室より、変更の趣旨について説明があり、了承された。

- ・数学系のスーパーグローバルコース修了認定書にかかる修了要件および各系のスーパーグローバルコース修了認定書にかかるコースの教育内容、想定される修了の要件等について【資料2～資料4】

数学系、化学系、人文社会科学系より、現在の修了要件等の案について資料に基づいて説明があった。

これを受けて、以下のような意見があった。

（幹事）スーパーグローバルコースの中身について考えていかななくてはならない。ジョイント／ダブルディグリーに関しては設置審あるいは学内の認可を通して質が保証されるが、それ以外の、修了認定書によってカバーする部分の範囲をどのように設定するか。

（数学系）数学系は、性質上、分野を限定せず包括的にどの分野の学生も対象とすること、博士課程において取得単位の定めがないことから、joint supervise が実質であり、それ以上のことを要件にするととなると難しい。

（幹事）数学系に関しては博士課程ということもあり、本案に対して特に異議は出ないかと思われるが、たとえば人社系と化学系を比較すると、人社系は修了要件のハードルをかなり高く設定しており、化学系はそこまで高く設定していないなど、内容に違

いがあるが、それらを全て同じ言葉で括ってよいのか、という点について議論をしていく必要がある。

また、文部科学省の当初の意図として、ジョイントディグリーを行って欲しい（設置審において質保証したい）ということがあったかと思うが、それが制度的に難しいとなった場合に、ジョイントディグリー以外のやり方について、どのように質保証されているかを文科省に対してアピールする必要があるかと思う。そのような質保証のやり方として、e-ポートフォリオの導入がひとつの案として考えられるかと思う。

→RFD（Researcher Development Framework）について、参考資料に基づき、幹事より説明。

各分野ごとに研究内容や指導のやり方については異なるが、学生の育成という観点で、このようなe-ポートフォリオをスーパーグローバルコース全体において共通して使用している、というのは文科省に対するアピールのひとつになるのではないかな。

また、このようなe-ポートフォリオを修了認定書の裏付け資料として添付することで質保証ができるのではないかな。

（社会健康医学系）リーディングプログラムのグローバル生存学大学院連携プログラムにおいてe-ポートフォリオを導入しているが、学生・教員ともに負担はかなり大きい。スーパーグローバルコースにおいて各分野に共通するものを作るとなるとさらに労力がかかるであろうが、その取組が文科省の要求するものと食い違ってしまっていたら意味がないので、文科省が何を求めているかの真意を探るべきかと思う。

（山本次長）文科省の意向という点については、中間評価のことも念頭に入れ、今後探っていくようにしたい。質保証に関しては、e-ポートフォリオの導入は難しくとも、共同指導の際の指導書のような記録を、修了認定の際の内部用の裏付け資料として求める、などが考えられるのではないかな。

（化学系）共同指導のエビデンスとして、博士論文の副指導教員として連携大学の教員の名前が正式に記録されることや、共著論文等をエビデンスと考えることはできないのか。

(数学系) 現在、海外連携大学の教員には副指導教員として正式に査読レポートを書いていただいているので、それに加えて、どのように指導したか、どのような成長があったか、といった点についてレポートを書いていただくことは可能かと思う。

(社会健康医学系) e-ポートフォリオに関しては、リーディングプログラムの場合は奨励金や研究費の支援があるため学生も真剣に取り組んでいるというところがあるので、通常の学生にも同じことを求めるのは難しいのではないかと。

また、ジョイントディグリーに関しては、海外大学からの要望は非常に多いが、日本側の新専攻設置という条件がハードルとなりなかなか実現が難しいため、ジョイントディグリー設置の要件を緩和していただくよう文部科学省に働きかけてはどうか。

・各サブユニット・分野からの活動報告【資料5～資料11】

各サブユニット・分野より、資料に基づき活動報告があった。

以下、資料内容に関する補足

(数学系) 資料に書かれているイベントに加えて、学生12-3名を2月から3月にかけて色々な国に海外派遣する予定である。学生が積極的に海外に行くようになってきている。

(化学系) 現在の連携先のMITとはジョイントコース設置はかなり困難であるため、ジョイントディグリーを行わなければならない、ということになると、ヨーロッパの大学との連携を視野に入れなくてはならないと考えている。

(医学生命系) マギル大学とのジョイントディグリーに関して、医学研究科内のワーキンググループにて調整・検討を進めている。3月に行うゲノム関連のシンポジウムは、ジョイントディグリーコースにおいて想定している講義・実習形式の予行練習のような意味も含んでいる。

(人社系) 人社系の6つのモジュールのうち経済学分野の5つを経済学研究科の東アジアコースと融合して、東アジアコースにトラック1～5を設ける。
文学研究科とハイデルベルク大学とのジョイントディグリー設置については、資料9のようなスケジュールで進めていく予定である。

(社会健康医学系) 2016年度より、既に実施しているダブルディグリーの履修生3名を含む20名程度をSGCコース生とする予定である。コース修了認定としては、

①研究指導、②国際シンポでのポスター発表、③国際学生ワークショップの企画運営、④国際共同コース（2単位）の単位取得、を考えている。

（環境学系）HP 開設、スプリングスクール、マヒドン大学・ボゴール農業大学・インドネシア大学とのダブルディグリーの実施について案内があった。

・ユニット内規について【資料12】

教育プロジェクト推進室より、各サブユニットがユニット化するにあたって、各ユニットにて作成する内規のひな形として、資料12が提示された。なお、新規参画分野の2分野についても、組織を明確化するため、本内規に準じて、作成することとした。

報 告

・サブユニットのユニット化について

教育プロジェクト推進室より、2月5日の学際融合教育研究推進センター運営委員会にて、各サブユニットのユニット化が承認された旨の案内があった。

・平成28年度スーパーグローバル大学創成支援予算配分額について【資料13】

教育プロジェクト推進室より、平成28年度の予算配分について資料13のとおりとする旨の案内があった。

資 料

資料1：ジャパンゲートウェイ構想パンフレット等ポンチ絵

資料2：数学系 修了要件について

資料3：化学系 修了要件について

資料4：人文社会科学系 修了要件について

参考資料：RFD（Researcher Development Framework）概要

資料5：数学系 活動報告

資料6：化学系 活動報告

資料7：医学生命系 活動報告

資料8：人文社会科学系（経済） 活動報告

資料9：人文社会科学系（文学） 活動報告

資料10：社会健康医学分野 活動報告

資料11：環境学分野 活動報告

資料12：ユニット内規ひな形

資料13：平成28年度スーパーグローバル大学創成支援予算配分額一覧